

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
16	山下いづみ（23）	<p>1. メタバースを活用した行政サービスについて</p> <p>デジタル変革が目覚ましい昨今、技術の種類も活用方法も様々です。民間や自治体でメタバースを活用した取組も出始めています。メタバースとは、インターネット上に構築された仮想空間のことを言います。特徴としては、現実世界と同じように建造物が立ち並び、ユーザーは自身の分身であるアバターを用いて仮想空間の中でイベントに参加したり、他者とコミュニケーションを取るなど、現実世界と遜色のない社会的な活動を営むことができる点が挙げられます。</p> <p>メタバースを活用する利点としては、関係人口の増、雇用の創出、地域の魅力をボーダーレスに発信、対面に近いコミュニケーションが取れることなどが言われています。例を挙げると、焼津市では今年12月に4回連続でバーチャルマーケット（メタバース上にある会場で、アバターなどの3D製品やリアル商品を売り買いできる世界最大のVRイベント）に出展を予定しています。また、福岡県では、孤独感や生きづらさを抱える若者が交流できるスペースをメタバース上に今年8月に開設をしました。</p> <p>行政サービスにメタバースを取り入れて、また一歩デジタル変革を前進させてはと考えます。そこで、以下2点質問をします。</p> <p>(1) メタバースを活用した行政サービスを検討していますか。また、今後はどのような展開を検討していきますか。</p> <p>(2) 例えば、二十歳をお祝いするイベントや孤独感や生きづらさを抱える若者が交流できるスペースづくりなど、若者向けにメタバースを取り入れた事業を始めてはどうでしょうか。</p> <p>2. 地元産品の市民向け広報について</p> <p>富士市には、紙製品をはじめ、農産物、水産物、木製品など、地元産品が数多くあります。これらの地元産品の販路拡大に向けて、海外や他県に出向いた展示会や出店、オンラインの活用など、様々な方法で広報を行っています。</p> <p>しかし、富士市産品の良さをもっと広めるためには、まずは市民に情報が伝わり、手に取りやすくすることが必要だと考えます。市民が地元産品のファンになることにより、市民から口コミや個人のSNSの発信等で、地元産品を広く知らしめていくことができると考えます。</p> <p>そこで、以下2点質問をします。</p> <p>(1) 地元産品を市民にどのように広報をしていますか。また、その有効性をどう捉えていますか。</p> <p>(2) 市内に富士市の情報コーナーを有するアンテナショップを設置してはどうでしょうか。</p>	市長 教育長 及び 担当部長